

岸岡山Ⅲ遺跡 第2次調査

所在地 : 鈴鹿市岸岡町字雲雀山

調査目的 : 宅地造成工事にかかる発掘調査

調査期間 : 平成19年11月20日～継続中

調査面積 : 約3,500 m²

調査主体 : 鈴鹿市

調査機関 : 鈴鹿市考古博物館 (鈴鹿市国分町224番地)

電話 : 059 - 374 - 1994

ホームページ : <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/>

e-mail : kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp

調査協力 : 株式会社 四門

1. はじめに

岸岡山Ⅲ遺跡を含む岸岡町字雲雀山^{きしおかやまさんいせき ひばり}、見当山、大門地域は、海岸近くの平地から孤立した標高約40m前後の洪積丘陵地^{こうせき}にあり、無土器時代^{むどきじだい}及び縄文時代^{じょうもんじだい}から、弥生時代^{やよいじだい}、古墳時代^{こふんじだい}、そして中世^{ちゆうせい}の城跡^{しろあと}が残る等、鈴鹿市内でも遺跡の分布が密な所として知られています（資料1）。

本丘陵とその海岸寄りの砂丘地帯にわたり、岸岡山古墳群^{きしおかやまこふんぐん}が分布します。この古墳群からは38基の古墳が発見されていますが、その多くは墳丘^{ふんきゆう}を失い、須恵器等^{すえき}の副葬品^{ふくそうひん}や円筒埴輪^{えんとうはにわ}及び形象埴輪^{けいしょうはにわ}の出土によって、所在が確認されたものが殆どです。

本丘陵の北側においては、白鳳時代^{はくほうじだい}の瓦が出土し、市内で最も古い寺院跡と想定される天王屋敷遺跡^{てんのうやしきいせき}が立地します。更に天王屋敷遺跡のすぐ東には、弥生時代から古代^{こだい}にかけての複合遺跡である天王遺跡^{てんのういせき}が所在し、弥生時代後期には大規模な溝を2重に巡らせた環濠集落^{かんごうしゅうらく}が存在していたと考えられます。また、奈良時代の蹄脚硯^{ていきやくけん}と呼ばれる大型の硯等も見つかっています。

今回の調査地から南東約180mの地点において、公園の管理用道路建設のため、岸岡山Ⅲ遺跡の第1次調査が実施されています。平成9年に行われたこの調査では、弥生時代後期から末期にかけての竪穴住居33棟を確認し、水晶剥片^{すいしょうはくへん}及び軽石加工品^{かるいしかこうひん}が出土する等の成果を得ています。特に、水晶の原石^{あらわりかこう}や荒割加工された出土品から、集落内において水晶の玉造り^{たまづくり}が行われていた可能性が高いと考えられています。

今回の調査は、宅地造成工事に先立って実施しました。調査面積は約3,500㎡で、弥生時代後期の竪穴住居、古墳時代後期の古墳等が発見されました。なお、調査は現在も継続中であり、3月末日をもって終了の予定ですが、資料の内容は全て3月14日現在の情報となっています。

2. 調査の成果

遺 構

(1) 竪穴住居：50棟（弥生時代後期：49棟，時期検討中1棟）

確認された弥生時代後期の住居跡は、一辺が平均4.5～5mの方形住居（資料3 写真2）で、柱穴及び壁溝、炉（資料3 写真5）を伴います。規模が大きなものは一辺6mを超えるものがあり、その一方では一辺3m前後の小規模な住居跡も存在します。多くの住居跡の南壁中央部付近に、壁溝と一体化した土坑が確認され、住居外へ延びる屋外溝を備える住居跡も存在します。また、位置を少しずらして建て替えたものや（資料3 写真4）、拡張を行った（資料3 写真3）と思われる住居跡も確認されています。

(2) 古墳：1基（古墳時代後期）

埋葬の主体部は東西3m×南北5mの横穴式石室ですが、天井や壁を構成していた石も抜き取られたと思われます。遺体を納める玄室と推測される空間の床に、直径5～10cmの礫が敷き詰められた痕跡（資料3 写真7, 8）が検出されました。この礫についても、大部分が抜き取られた後、何らかの理由で戻されたと考えられ、後世に掘り返された結果、一部が辛うじて残っていたものと思われます。玄室から発見された須恵器及び刀子は、副葬品であると考えられます。墳丘は削平されていますが、その推定部の周囲を巡るように、周溝も検出されました。横穴式石室は市内でも発見例が少なく、この岸岡山古墳群では初めての発見となります。また、完全な形ではないものの、周溝が確認されたことは非常に貴重であり、岸岡山古墳群で初の事例となります。

(3) 溝：19条（弥生時代後期8条，古墳時代後期1条，時期検討中10条）

弥生時代後期の住居に付帯し、屋外溝と考えられるものが8条確認されました。住居内の壁溝と一体化して屋外へ延び、斜面下へ向かって流れるような形（資料3 写真6）を成しています。住居内の湿気対策を意図したものであると考えられます。古墳時代後期の古墳の周りには、幅3～4mの周溝が1条検出されました。その他の溝については、住居との新旧関係が判明しているものもありますが、大きな時期差を物語る遺物の出土はなく、弥生時代後期から末期に属する可能性が高いと思われます。

(4) その他

①掘立柱建物（時期検討中1棟）

外周りにだけ柱を巡らせる側柱建物がわばしらたてものと思われます。詳細については検討中ですが、1間×4間（1.6m×6.0m）の規模であると推測されます。竪穴住居群と同時期に属する可能性が高いと考えられます。

②柱穴群

調査区の至る所に多数の柱穴が確認されます。竪穴住居及び掘立柱建物に伴う可能性は低く、その用途はよく分かっていませぬ。中には土器が出土したもののもあます。

遺物

(1) 土器 ① 弥生土器やよいどき：高杯たかつき（資料4 写真9）、壺つぼ（資料4 写真10）、甕かめ（資料4 写真11）、ミニチュア土器

② 須恵器すえき：高坏、壺、甕、杯つき（資料4 写真15）

(2) 石器せつき：玉砥石たまといし（資料4 写真14）、石斧せきふ（資料4 写真13）

(3) その他：刀子とうす（資料4 写真16）、軽石かるいし

※弥生時代の遺物としては、用途不明の土製品（資料 4 写真 12 高さ 8.5 cm）も発見されています。頂部を切り取った円錐形で、斜めに孔が開けられています。

（遺物量 コンテナバット（34.5×53×15 cm）に 67 箱）

現在整理作業中のため、最終的に増加する可能性があります。

データ（平成 20 年 3 月 14 日現在）

遺 構 弥生時代後期 : 方形竪穴住居 49 棟 溝 8 条（屋外溝）

古墳時代後期 : 古墳 1 基 溝 1 条（周溝）

時期検討中 : 不定形竪穴住居 1 棟 溝 10 条 掘立柱建物 1 棟

用語解説

①竪穴住居

地面を円形や方形に掘り窪めて床にし、その中に複数の柱を立て、土及び植物等を利用して屋根をふいた半地下式の建物のことをいう。住居内には炉及び貯蔵穴^{ちよぞうけつ}、壁溝等が設けられ、防寒・保温性に優れていた。弥生時代については円形のもが主流だが、弥生時代の中期後半頃になると、方形の住居が現れ始める。一般的な規模は 20～30 m²前後である。

②横穴式石室

古墳の横方向に穴を設け、遺体を安置する玄室へと繋がる通路^{せんどう}（羨道）を造り付けた石積みの埋葬施設のことである。出入口の開閉により、追葬^{ついそう}が可能な構造をしている。古墳時代中期に九州北部で出現し、古墳時代後期には全国的に造られるようになる。墳丘は消失しているものの、奈良県明日香村^{あすかむら}にある石舞台古墳^{いしぶたいこふん}が有名である。

③刀子

現代の小刀及びナイフに通じる小型の短い刀で、長さは15～30 cm程度のもが多い。切る、削る等、加工の用途に用いられることが一般的であるが、厨房具及び化粧道具^{もっかん}、木簡の表面を削る書刀等、幅広い用途の万能工具である。弥生時代に中国から伝来し、古墳時代には古墳の副葬品として出土するようになる。古墳時代後期の古墳からの出土例が多くみられる。

④玉砥石

砥石は骨角器^{こっかくき}及び石器、木器、金属器用として用いられた。その中でも、特別に玉を研磨する用途に用いられ、表面に細い溝が並行するものを玉砥石^{すじといし}（筋砥石）という。使用法でみると、据えて使うもの及び手に持って使うものの2種がある。

⑤石斧

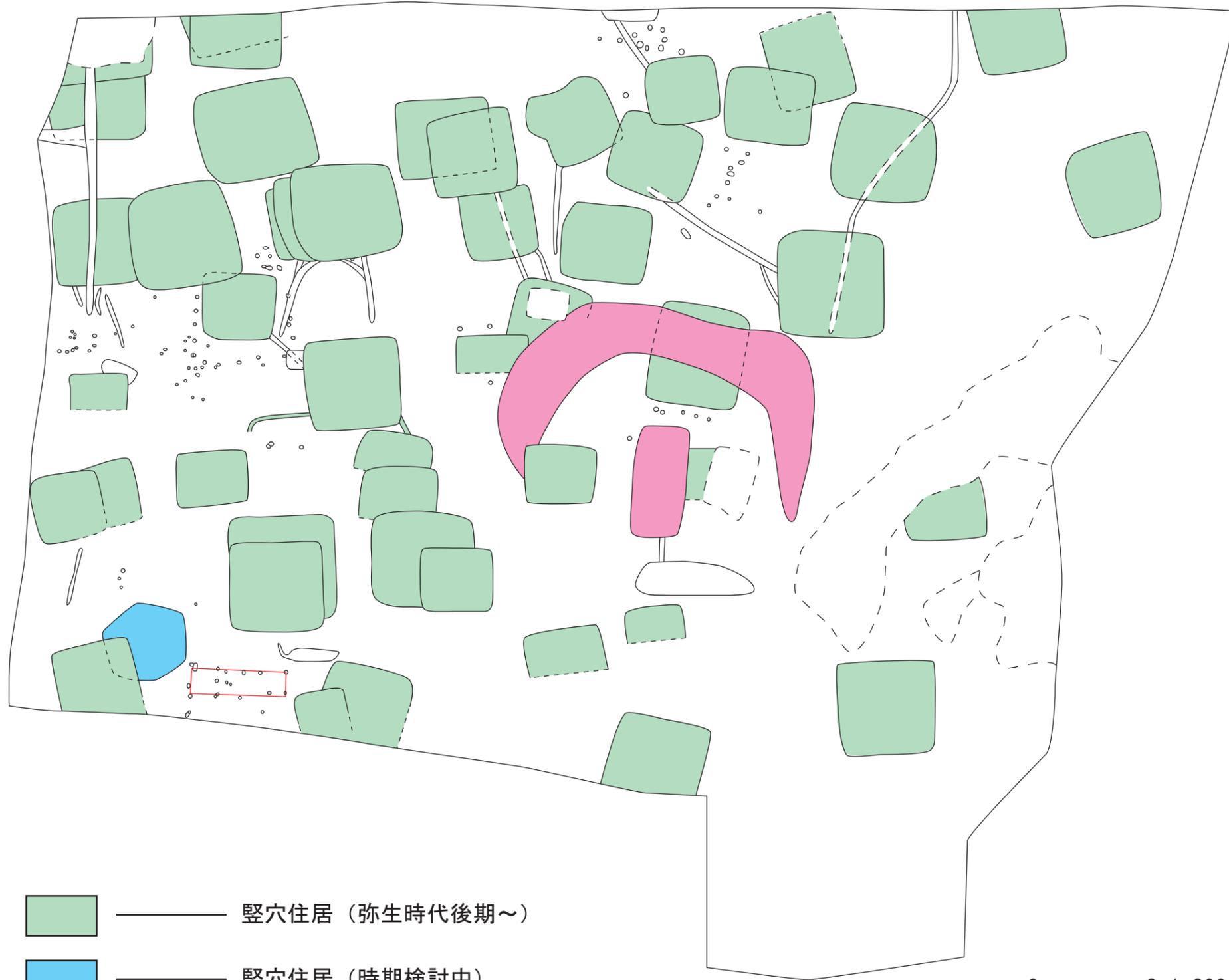
主に木の伐採及び打ち割り、削平に使用する石の刃物である。他にも、土掘り及び戦闘用、大型獣の狩猟及び解体としての用途を持っている。多くは木などの柄を付けて用いられた。製法からすると、全体を打ち欠いて仕上げた打製石斧^{だせいせきふ}、全体を磨き上げた磨製石斧^{ませいせきふ}、刃部分を磨いた局部・部分磨製石斧がある。後期旧石器時代では、打製石斧及び局部・部分磨製石斧が作られたが、縄文時代になると、局部・部分磨製石斧は徐々に姿を消し、磨製石斧が作られるようになる。

資料1:調査地とその周辺の主な遺跡(S=1:5000)



※古墳はアラビア数字で明記 <例> ●1 ⇒ 岸岡山1号墳

資料2 遺構配置図



-  縦穴住居（弥生時代後期～）
-  縦穴住居（時期検討中）
-  古墳
-  掘立柱建物



資料3 調査写真



写真1 調査区北側 全景



写真2 竪穴住居



写真3 竪穴住居 壁溝 拡張状況



写真4 竪穴住居 建て替え状況



写真5 竪穴住居 炉 半裁状況



写真6 竪穴住居 屋外溝



写真7 古墳 横穴式石室 礫敷き状況



写真8 古墳 横穴式石室 礫敷き状況

資料4 遺物写真



写真9 弥生土器 高坏 出土状況



写真10 弥生土器 壺 出土状況



写真11 弥生土器 甕 出土状況



写真12 土製品 用途不明 出土状況



写真13 石器 石斧 出土状況



写真14 石器 玉砥石



写真15 須恵器 坏 出土状況



写真16 その他 刀子